

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

岡崎市交通政策会議

平成18年11月27日設置

フィーダー系統	平成28年6月28日	確保維持計画策定
	平成29年3月1日	確保維持計画変更

【岡崎市公共交通網形成計画】

《計画期間：平成28年度～平成32年度》

本市には、市中心部の「まちなか地域」、まちなか地域の外延部に位置する「郊外地域」、額田地域をはじめとした「中山間地域」があり、各地域で地域の特性に応じたまちづくりが行われている。

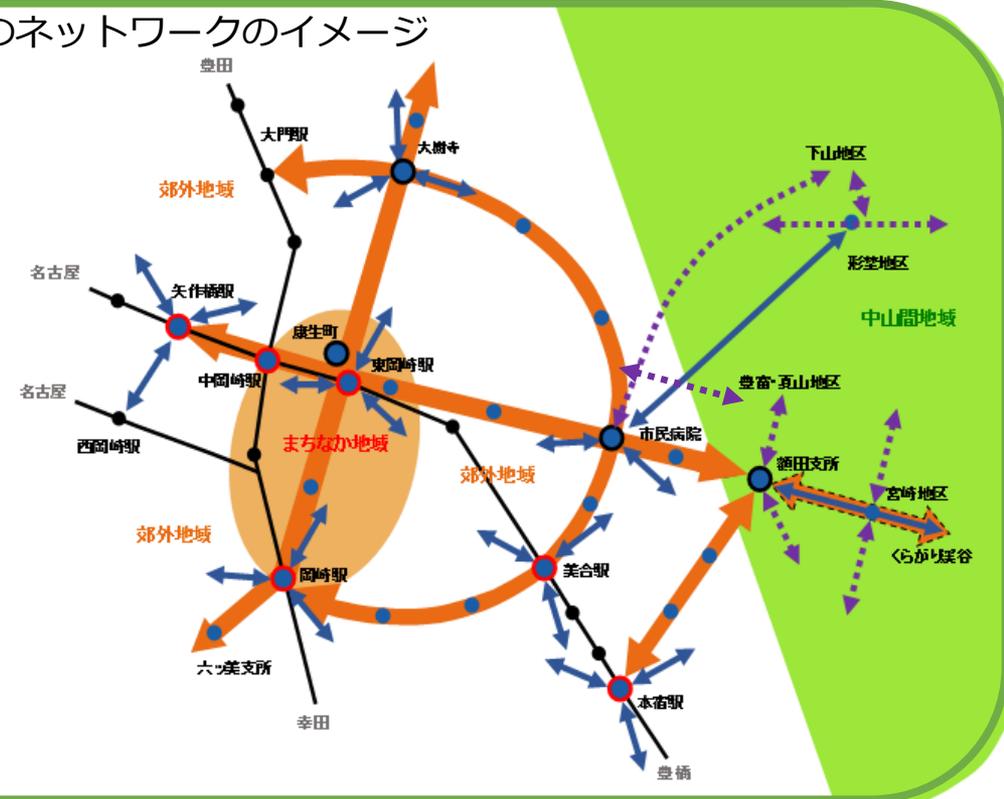
本市では、まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの構築等、持続可能な公共交通網を確保するため、平成28年5月に**岡崎市公共交通網形成計画**を策定し、公共交通施策の目標を右記のとおり設定した。

公共交通施策の目標

- 1 少子高齢化の進展に対応した誰でも使いやすい公共交通の整備
- 2 地域のニーズにあった利便性の高い公共交通の整備
- 3 まちづくり施策との連携によるまちの魅力を高める公共交通の整備
- 4 地域のコミュニティの活性化や交流を促進する公共交通の整備
- 5 市民の意識変容による公共交通利用の促進

公共交通のネットワークのイメージ

凡例	
	鉄道
	基幹路線
	支線交通路線
	生活交通路線 (フィーダー補助対象路線)
	鉄道駅型交通結節点
	バス停型交通結節点



【岡崎市地域公共交通網形成計画における目標】

目標達成に向けた取組みによる目標値を設定しているが、その目標値は計画期間の終了時である平成32年度のものである。

現在は、計画期間中であるため、計画の総括を行う際に、目標値の達成状況についても確認を行い、次の計画に反映させていくが、把握できる直近の現況値について記載する。

成果目標	現況値	目標値	直近の現況値 (期間・時点)
バス利用者数の増加	666万人／年以上 (平成24年度乗客数)	現況値以上	680万人／年以上 (平成28年度)
駅のバリアフリー 対応	未整備4箇所	未整備2箇所	未整備4箇所 (平成29年12月時点)
ノンステップ バスの導入率	38% (市内民営、市営)	50%	43% (平成29年12月時点)
公共交通 利用者数の増加	2,993万人／年以上 (H24 年度鉄道乗客数2,327万人 バス乗客数666万人)	3,000万人／年以上	3,148万人／年以上 (平成28年度)
地域内交通検討の 組織の設立	4ヶ所 (H26年度)	6ヶ所	5ヶ所 (平成29年12月時点)
乗り方教室の 実施回数	1回 (H26年度)	5回	4回 (平成28年度)

【主な取組み】

1. 額田地域内フィーダー交通の確保・維持・改善（補助対象事業）

- ・ 中山間地域である額田地域において、コミュニティバスの運行を計画的に運行した。
- ・ 地域内の住民とともにバス利用実態のアンケート調査を行い、診療所への便を増加する等地域のニーズに合わせた運行へ見直しを行った。
- ・ 沿線地域住民からの要望を受け、バス停名の文字数を3文字以内とし、バス停の文字を大きくすることで遠くからでもバス停名称を視認できるように改善した。

2. 利用促進の実施（非補助事業）

- ・ 地域住民に対して利用状況や得々パスのサービス内容を広く周知するため、チラシを配付した。
- ・ 公共交通マップを作製し、市内バス路線の情報提供を行った。（右上図参照）
- ・ 市内イベントにおいて「公共交通に親しむ日」を実施し、額田地域の魅力とともに実際に運行している車両の展示や、バスの運転手体験、バスの乗り方教室等を開催した。（右下写真参照）
- ・ 市内中学校において公共交通・交通安全教室やバスの乗り方教室を行いモビリティ・マネジメントを図った。（次ページ参照）
- ・ 高齢者を対象にバスの乗り方の説明会を実施した。



公共交通マップ



「公共交通に親しむ日」バスの乗り方教室

3. バス路線の評価・見直しに向けた検討（非補助事業）

- ・ 定量評価の指標について、収支率、便当たり利用者数、利用率に加えて例えば年間利用者数等、他の数値指標を検討した。
- ・ 定性評価の指標について、沿線住民の移動手段確保の必要性や行政としての必要性等、新たな指標を検討した。

4. 地域公共交通会議の開催（非補助事業）

- ・ 岡崎市交通政策会議は4回開催した。
- ・ 額田地域生活協議会は3回開催した。

5. まちバスの運行改善（非補助事業）

- ・ 沿線の商業施設の撤退や居住施設の立地等、バスを取り巻く環境が変化していることから、まちなか等における利便性の向上や回遊性の向上を図るため、交通結節点や商業施設等を結ぶ循環型バスの運行を検討し、平成30年1月から東岡崎に接続するルートに変更した。



市内中学校で実施した乗り方教室

【その他の取組み】

1. 愛知環状鉄道のICカード導入
2. 愛知環状鉄道の高架橋耐震対策・修繕



ICカード利用イメージ



まちバス

4. 具体的取組みに対する評価

【取組みに対する評価】

1 額田地域内フィーダー交通の確保・維持・改善（補助対象事業）

取り組み結果について次のとおり指標及び目標値を設定し、実績に対する評価を行った。

○利用者数及び利用率（※利用率は日利用者数／路線の停留所から500m以内沿線人口×100にて算出）

路線名	利用者数			利用率		
	平成29年 目標(人) H28.10~H29.9	平成29年 実績(人) H28.10~H29.9	達成状況	平成29年 目標(%) H28.10~H29.9	平成29年 実績(%) H28.10~H29.9	達成状況
額田支所市民病院線	7,611	7,075	未達成	0.19%	0.18%	未達成
下山地区線	4,409	4,905	達成	2.09%	2.33%	達成
形埜地区線	914	777	未達成	0.35%	0.29%	未達成
宮崎地区線	441	410	未達成	0.38%	0.44%	達成
豊富・夏山地区線	480	442	未達成	0.15%	0.14%	未達成

○日利用者数及び沿線人口（※日利用者数は年間利用者数／年間運行日数にて算出）

路線名	日利用者数		沿線人口		
	平成29年 目標(人) H28.10~H29.9	平成29年 実績(人) H28.10~H29.9	平成27年 10月(人)	平成29年 10月(人)	増減の有無
額田支所市民病院線	20.9	19.4	10,921	11,031	増加
下山地区線	18.2	20.1	873	864	減少
形埜地区線	4.8	4.0	1,387	1,374	減少
宮崎地区線	3.1	3.4	812	780	減少
豊富・夏山地区線	4.9	4.5	3,161	3,150	減少

各路線の評価結果に対する考察

○額田支所市民病院線（未達成）

運行範囲が多学区にわたっており、額田地域以外への周知不足が原因と考えられる。

○下山地区線（達成）

ささゆりバスの運行エリア付近である豊田市地域への利用案内など、地元の利用促進策の効果で利用が増加し、さらに、運行内容のチラシ及び利用状況やお得なバスの使い方等のチラシを地域住民に配付し、周知した。

○形埜地区線（未達成）

ほとんど利用されていない上一色平まで運行しているなど、往復に時間がかかる等の不便な面があった。また、利用が多い診療所通院に配慮されたダイヤになっていなかったが、平成29年10月に運行見直しを行うとともに、運行内容のチラシ及び利用状況やお得なバスの使い方等のチラシを地域住民に配付し、周知した。

○宮崎地区線（達成）

沿線人口の減少が利用者数減の一因でもあるが、4月に行ったダイヤ変更の周知が不十分であったと思われる。運行内容のチラシは配付したが、チラシ以外の周知方法も検討すべきであったため、利用状況やお得なバスの使い方等のチラシを地域住民に配付し、周知した。

○豊富・夏山地区線（未達成）

平成29年4月に運行の見直しを行ったが、利用者数、利用率ともに未達成であった。周知不足が原因と考えられるため、運行内容のチラシは配付したが、チラシ以外の周知方法も検討すべきであったため、利用状況やお得なバスの使い方等のチラシを地域住民に配付し、周知した。

2 利用促進策の実施（非補助事業）

- ・ 市内バス全体の利用者数は6,651,855人で、前年の6,626,647人と比較すると25,208人の増加。
- ・ 住宅開発により移住した転入者に公共交通マップを配布しており、バス利用が進んだ要因の一つと思われる。
（春咲地区、真伝地区、上六名地区など）

3 バス路線評価・見直しに向けた検討（非補助事業）

- ・ 本市のバス路線全てに関する定量評価、定性評価の指標の素案を作成し、効率性、必要性を検証。

4 地域公共交通会議の開催（非補助事業）

- ・ 額田地域生活交通協議会を3回開催し、利用状況に基づく運行の見直しについて検討・協議を行った。さらに、ダイヤを変更しても利用者が増加しない等、運行に関する課題の共有化を図り、各地区の地域住民への周知を行った。

課題

対応方針

1 額田地域内フィーダー交通の確保・維持・改善

- ・運行の見直しを実施したにも関わらず利用者、利用率の目標が未達成の路線があった。見直しの周知や内容に問題あり。



- ・額田コミュニティバスの利用状況等をまとめたチラシの配布に加え、地区のイベントなど住民が集まる機会を捉え、バス利用の啓発や利用案内を行う。
- ・運行を変更した後、診療所通院の利便性が実際に向上しているかどうかを検証する。

2 利用促進策の実施

- ・効果的な利用促進策は継続して実行し、新たな取組みも行っていく必要がある。



- ・これまでの実施内容を継続しつつ、中学生などの今後のバス利用者となる可能性高い世代を対象に利用促進策を実施し、対象を小学生へ拡大していく。

3. 市内バス路線評価・見直しに向けた検討

- ・評価指標の素案を作成したが、路線を評価することまでできていない。



- ・評価指標を決める。
- ・市内路線バスの評価を行い、路線の見直しにつなげていく。

4 地域公共交通会議の開催

- ・今後も、額田地域生活交通協議会を継続して開催し、地域住民、交通事業者、行政が連携し運行内内容や利用促進策を検討していく必要がある。

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

岡崎市交通政策会議

平成18年11月27日設置

フィーダー系統	平成28年6月28日	確保維持計画策定
	平成29年3月1日	確保維持計画変更

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等の調査結果を地域協議会で研究し、運行見直しを行った。 ・公共交通マップの作製や市内イベントにおいて、沿線地域とバス路線の紹介等の利用促進策を実施した。 ・運行見直しのチラシを作製し、地域内住民に配布した。 ・より分かりやすいバス停名称に変更した。 	<p>効果的な利用促進策は継続して実施し、地域の特性やニーズに合った持続可能な公共交通を目指し、地域住民、交通事業者、行政等多様な主体が協同して計画・整備・運行を行っていく。</p>
<p>地域公共交通網形成計画を策定し、まちづくりとの連携、基幹路線の充実を図り、計画の推進に積極的に取り組むことを期待する。</p>	<p>「岡崎市公共交通網形成画」を策定し、市内バス路線の評価、見直しについて、定量評価、定性評価の指標の素案を作成した。</p>	<p>市内路線バスの評価、見直しの実施を行い、まちづくりと連携したバスネットワークの確保・維持を図っていく。</p>

◎地域協議会での協議・意見交換

額田地域の各地区に協議会があり、開催時には市職員は必ず参加し、定期的にコミュニティバス等の利用状況の確認や、路線の維持・確保のため次の取り組みを実施した。

運行見直しのため、全体の額田地域生活交通協議会は5回、各地区（全5地区）の協議会は計25回開催した。

- 1 額田地域住民全てを対象としてアンケート調査を実施した。
- 2 利用ニーズが高い各学区の診療所（額田北部診療所、額田宮崎診療所、星野クリニック）への通院手段等について、受診者に直接聞き取り調査を行った。
- 3 アンケート結果や聞き取り調査結果を地域協議会で研究し、住民ニーズに対応したコミュニティバス運行の見直しを行った。

これらの取り組みは3年に一度の路線見直しに反映している。

（下山・宮崎・豊富・夏山地区は、運行事業者と協議を行った結果、平成29年10月1日からの見直しを半年早め、平成29年4月1日から運行を変更した。）

※ 形埜地区線は、平成29年10月1日から運行変更

- 4 新たな利用促進策を実施した。
 - ・コミュニティバスの利用状況等をまとめたチラシを作製し、地域住民へ配布。
 - ・路線バスのお得なサービス（得々パス）を広く周知するため、チラシを作製し地域住民へ配付。
 - ・より分かりやすいバス停名称に変更。

◎その他の公共交通利用促進

・まちバスの運行改善

沿線の商業施設の撤退や居住施設の立地等、バスを取り巻く環境が変化していることから、まちなか等における利便性の向上や回遊性の向上を図るため、交通結節点や商業施設等を結ぶ循環型バスの運行を検討し、平成30年1月から東岡崎に接続するルートに変更した。

・公共交通に親しむ日の実施

平成29年11月4日（土）、5日（日）の2日間、次世代を担う子どもたちや高齢者を始めとした市民等が公共交通に親しみ、公共交通の重要性を知ってもらうため、行政、交通事業者、地域住民の協議会等が連携し「公共交通に親しむ日」事業を実施した。

・公共交通で巡る観光マップの作成

岡崎城や大樹寺等、本市は名跡・史跡が多く公共交通機関での移動が可能であるため、観光マップを作製し来街者等に配布している。

・公共空間の新しい利活用の社会実験

平成29年10月28日（土）に、りぶら前や連尺通り等、康生地区の一部エリアにおいて車両を通行止めにした上で、道路上に人工芝を敷く等、道路を歩行者空間として演出し、道路を始めとした新しい公共空間の利活用と車・自転車・バス等の交通の接続を試行する社会実験を行った。